

「望ましい運動部活動のあり方」

～葛南地区の駅伝部の活動に注目して～

千葉県鎌ケ谷市立第二中学校 教諭 井島 彩美

1 はじめに

葛南地区は千葉県の北西部に位置し、鎌ケ谷市と我孫子市の2つの市によって成り立っている。鎌ケ谷市には、東武野田線・新京成電鉄・北総鉄道・成田スカイアクセスの鉄道4線と道路網が発達しており、都心から25キロメートル圏内にあることから、首都近郊の住宅都市として発展してきた。市内には5校中学校がある。一方我孫子市は、手賀沼と利根川に挟まれた馬の背状の土地をしており、かつては網代場や物資輸送の起点として栄えていた。常磐線の開通に伴い、鎌ケ谷同様に首都圏への通勤者の住宅地として大きな役割を果たしている。市内には6校中学校がある。

現在、葛南地区には11校の中学校があり、全て葛南地区小中学校体育連盟（以下葛南小中体連）に加盟している。葛南小中体連は事務局と14の競技部から成り、競技部ごとに総合体育大会、新人大会を実施している。また、葛南小中体連を支える組織として、鎌ケ谷市小中学校体育連盟（以下鎌ケ谷市小中体連）と我孫子市小中学校体育連盟（以下我孫子市小中体連）があり、葛南小中体連と同様に総合体育大会と新人大会を実施している。また、各市とも保護者の教育に対する意識は大変高く、学校の教育活動に大変協力的である。

2 研究のねらい

葛南小中体連では年に2回の駅伝大会を運営しているが、葛南地区の学校は他の駅伝大会にも積極的に出場している。中でも今年67回目という伝統ある東葛飾地区（6市：松戸市、柏市、野田市、流山市、我孫子市、鎌ケ谷市）中学校駅伝競走大会では、毎年70校余りが参加をし、10区間31.9キロメートルを走り、葛南地区の中学校が毎年上位に入賞している。学校によっては駅伝部だけで10区間を走りきるのは困難であり、他部活からも選手として出場するなど、学校全体で大会に向けてサポートをする体制が整えられてきた。また、鎌ケ谷市小中体連では市内駅伝大会を企画し、日頃のトレーニングの成果を発揮する機会を設けている。

さらに、平成24年度千葉県新人駅伝大会では、出場校全60校中葛南地区から出場した男子の鎌ケ谷二中が優勝をし、9位鎌ケ谷三中、10位鎌ケ谷四中と健闘した。女子でも、白山中（我孫子）が優勝、8位鎌ケ谷中、10位我孫子中と男女共に葛南地区では県大会でも上位に入る学校が多い。



第66回東葛飾地区中学校駅伝大会

これらのことから、葛南地区の駅伝部が県大会で優秀な成績を収めている背景を、部活動の運営面と生徒の身体能力の2つの視点から検証をし、よりよい部活動のありかたにつなげていけるように考えていきたい。

3 研究の概要

- (1) 駅伝部の部員にアンケートを実施し、部活動の雰囲気や意識を調査する。
- (2) 駅伝部顧問にアンケートを実施し、部活動の運営について調査する。
- (3) 各学校の駅伝部の新体力テストの結果をもとに、生徒の運動能力を比較する。

4 研究の実践

(1) 駅伝部のアンケートの結果および考察

① 女子の結果より（白山中・我孫子中・鎌ヶ谷中対象）

表1より部活動は楽しいですかという質問に対して、約80%の生徒が楽しさを感じている。これは、満足した活動である事を表していると考えられる。好きなスポーツに取り組む場は、生きがいと喜びを感じる場として大変貴重である。

表2より、部活動の雰囲気については、勝つ事を優先した雰囲気と答えた生徒はいなかった。互いに高めあい認め合う存在であり、目標に向かって努力を重ねる姿勢を重視していることが伝わってくる。結果だけにこだわらず、日々の活動をしていることがわかる。こうした豊かな人間関係づくりも、充実した部活動には欠かせない。共通の目標に向かって努力する過程を通して、生徒同士に親密なふれあいが見られ、授業とは異なる人間関係の深まりが認められる。

表3より、7割の生徒が今後も部活動や趣味として長距離を続けたいと考えている事がわかる。生涯にわたって、スポーツに親しむ礎となっているようだ。

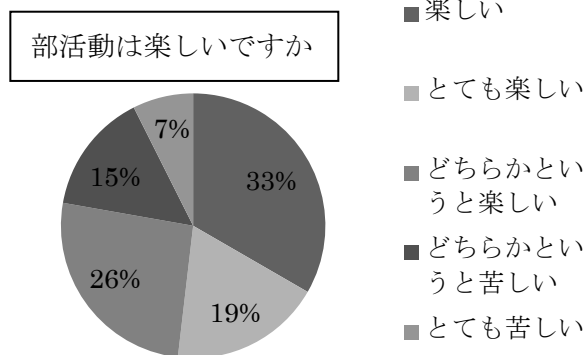


表1

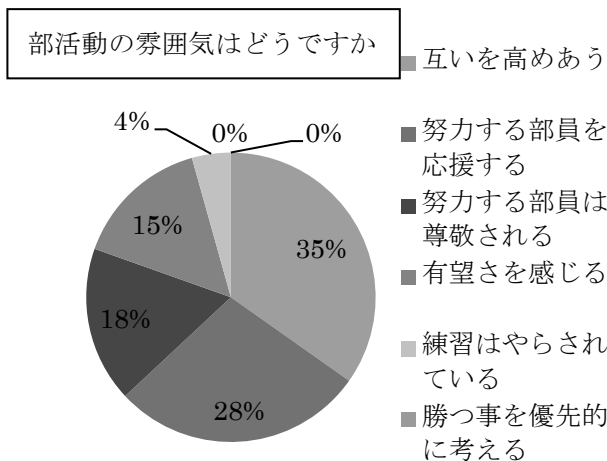
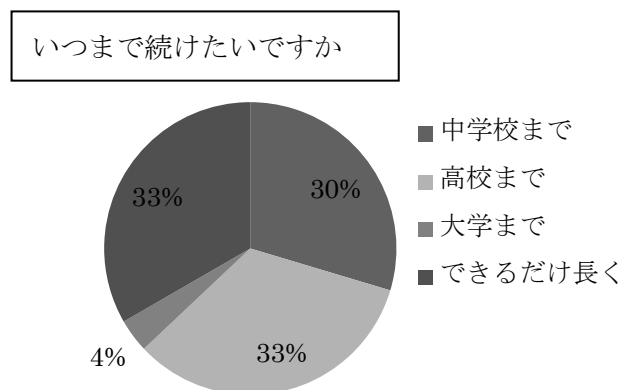


表2



② 男子の結果より（鎌ヶ谷二中・鎌ヶ谷三中・鎌ヶ谷四中）

表4より部活動は楽しいですかという質問に対して、約90%の生徒が楽しさを感じている。中でも、楽しい・とても楽しいという解答が70%を超えている。

表5より、部活動の雰囲気については、女子と異なる結果となった。今後、このチームは良い成績を収めるだろうという有望さを感じているという内容が一番多かった。さらに、互いを高めあったり、頑張っている仲間を認めようとする雰囲気も女子同様に多くの生徒が感じているが、勝つ事を優先的に考えている生徒が男子の中にはいることがわかる。このことから、男子の方が結果にこだわりを持って練習に取り組んでいる事がわかる。

表6より、女子と同様に7割以上の生徒が今後も部活動や趣味として長距離を続けたいと考えている事がわかる。趣味や競技としてできるだけ長く続けたい生徒は、若干女子よりも多くなっている。生涯にわたってたくましく生きるための体力と健康づくりにつながっていくと考えられる。

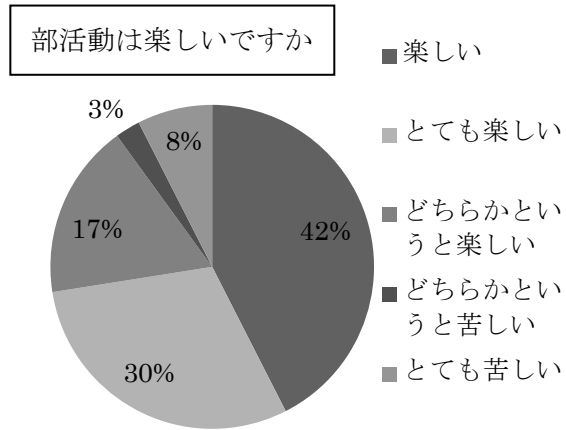


表4

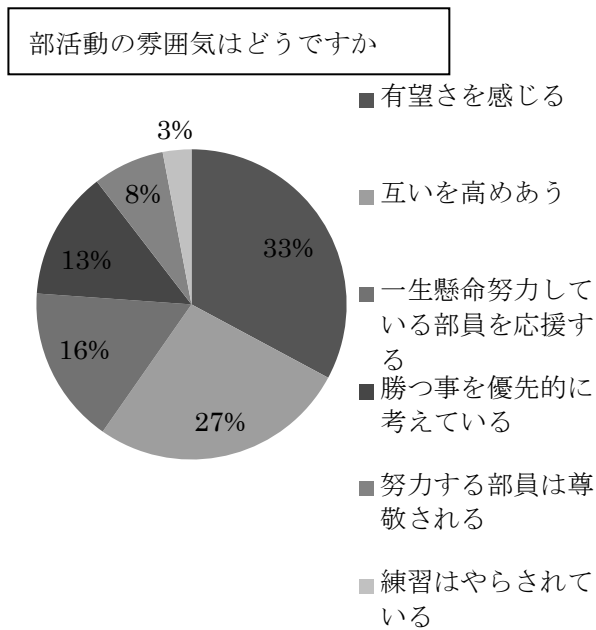


表5

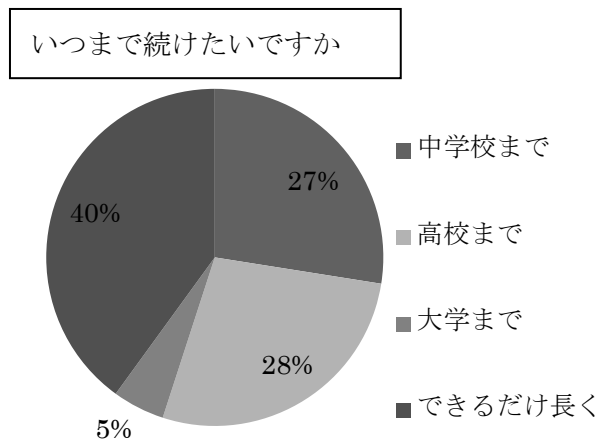


表6

(2) 部活動の運営において

6校の駅伝部顧問にも、部活動の運営に関するアンケートを行った。活動時間は平日2～3時間、休日3～4時間、週6日の活動であることはどこの学校も共通であった。

しかし、毎日部活動指導に携わる先生と、1日1時間程度しか指導できない先生とにわかれていた。長期休暇も平均して夏休み35日、冬休み10日、春休み9日となり、夏休みには合宿を実施しているところも同じであった。写真1部活動指導は、子どものために重要な活動であり、大いにやりがいを感じるという回答がほとんどであり、意欲的に活動している顧問ばかりである。どの学校も部活動の目標として、精神力や責任感を育てるということに重きを置いて活動している。

(3) ① 駅伝部の生徒の運動能力と千葉県平均（平成24年度）の比較

男子の平均値は、全ての項目において千葉県平均値を上回っていた。女子の平均値は、握力以外で平均値を上回っていた。特に20mシャトルランの結果が県平均値を大きく上回っているが、その他の種目でも高い結果となっており、総合的に運動能力の優れた部員が多いと考えられる。

② 学校の協力体制

全ての学校において、全校体制で冬季トレーニング写真2を実施している。冬場は日没が早まることに伴い下校時間が早まるため十分な部活動の時間が確保できない。そこで、部活動終了時刻から全部活から募った有志で、30分程度校庭を走って体力を高めようという活動が冬季トレーニングである。

5 研究のまとめ

男女共に、部活動は好きなスポーツに取り組む場であり、各自の良さを認め合え、喜びと生きがいをもたらすような雰囲気作りに努めなければならない。生徒にとっては、友情や連帯感を育み、自己の存在や責任を見つめ、思いやりや集団生活のルールを身につける場となるような配慮が必要である。また、男子には具体的な目標や目指すべき結果を具体的に伝え、自分たちが理想とするあり方をイメージさせることが、集団の意識を高めることにも繋がっていく。女子は、互いの長所を認め合い、共に頑張る仲間作りを重点的に行い、集団のつながりをより強めていくことで、高いパフォーマンスを発揮する事につながると考えられる。こうした生徒のモチベーションと、顧問の熱心な指導、保護者や地域の協力・理解、学校全体で体力を高めようというサポート体制が揃った結果、生徒のポテンシャルが最大限発揮され、葛南地区の多くの学校で県大会の上位を占めるという素晴らしい成績に表れている事が考えられる。今後も「全ては子どもたちのために」を合言葉に、学校・家庭・地域が手を携えて知恵を出し合いとりくむことが、望ましい運動部活動のあり方と考えられる。

